

アジアフォーカス・福岡国際映画祭2012

■期間／9月14日(金)～23日(日) ■入場者数／23,177人(協賛企画を含む)

天神ふれあい広場に巨大ステージとレッドカーペットが出現し、
本映画祭初となる野外でのオープニングセレモニーで幕を開けた22回目のアジアフォーカス。
10日間の期間中、23,177人の観客がアジアの今とエンタテインメントを楽しんだ。



オープニングセレモニー & 野外上映

9月14日(金)／市役所前天神ふれあい広場

野外独特の開放的で華やかな雰囲気の中、アジア各国・地域のスターや監督たちが颯爽とレッドカーペットを歩くと約2,000人の観客で埋め尽くされた会場は熱気に包まれた。特別ゲストとして周防正行監督と映画評論家おすぎも参加。おすぎさんは高島市長とのかけあいで会場を盛り上げた。セレモニー後は特設大型スクリーンで「ダンシング・クイーン」(2011年／韓国)を上映。夢をあきらめない夫婦二人の奮闘劇に、観客から万雷の拍手が起きた。



9月15日(土)／T・ジョイ博多

「つい したく終の信託」公開記念

周防正行監督 トークイベント

話題の新作日本映画との連携を深めた今年のアジアフォーカス。15日は「終の信託」から周防正行監督をお招きして特別予告編・メイキング映像を見ながら新作についてたっぷり語っていただいた。17日は22,000人以上の応募があった「黄金を抱いて翔べ」特別試写会(ワールドプレミア)。上映後の興奮冷めやらめなか井筒和幸監督が登場し、独特の語り口に会場が大いに沸いた。



9月17日(月・祝)／T・ジョイ博多

特別試写会

「黄金を抱いて 翔べ」

福岡観客賞 授賞式&特別上映会

9月19日(水) / JR九州ホール

観客の投票で決める「福岡観客賞」は映画祭のハイライト。監督、俳優たちが一堂に会する中、授賞作「BOL～声をあげる～」(2011年/パキスタン)が発表されると会場から拍手と歓声が沸き起こった。ショエーブ・マンズール監督は2008年の「神に誓って」に続いての受賞である。今年から新設された「熊本市賞」は、オープニングを飾った「ダンシング・クイーン」に贈られた。特別上映会は故・原田芳雄の遺作「大鹿村騒動記」。



9月17日(月・祝) / JR博多シティ10階大会議室

シンポジウム1

南アジアの映画製作を聞く



シンポジウム2

**映画を耕す
～農業は映画だ!～**



「南アジアの映画製作を聞く」ではプラサンナ・ヴィターナゲ監督(スリランカ)とモルシエドゥル・イスラム監督(バングラデシュ)が資金調達や大国インドとの関係性などについて語った。「映画を耕す～農業は映画だ!～」では中江裕司監督、山崎樹一郎監督、梁木ディレクターが映画評論家・村山匡一郎氏の司会で「地産地生」をテーマに語り合った。

その他にも、今最も旬な韓国アーティストINFINITE初となる3Dコンサート・ムービーのワールドプレミア上映(INFINITEの7人も舞台あいさつに登場!)や、フクオカ・ナウとのコラボレーションで開催したフィルムフェスティバルパーティーなど、「楽しむ映画祭」をテーマに新たな魅力を提供した。



バリアフリー上映会 特別協賛事業

9月22日(土) / JR九州ホール

「一枚のハガキ」(2011年/日本)
「彼女が消えた浜辺」(2009年/イラン)
ボランティアの協力で「耳の不自由な人のために邦画にも日本語字幕を付ける」「目の不自由な人のために状況描写の副音声をつける(FMトランスミッター配布)」手法により2作品が上映された。



上映作品 9月15日(土)～23日(日) / T・ジョイ博多ほか

アジア15カ国・地域の37作品(協賛企画を含めると233作品)を上映。映画監督、プロデューサー、俳優など計55人が来福した。

| | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |